

青くて赤いあ

の日のこと



青くて赤いあの日のこと／ニューロカリズム
2023
3 福岡女学院大学 人文学部 現代文化学科 池田ゼミ発行

ニューロカリズム 2023

えっと瀬戸の魅力があるがんす〜／広島県

ハプニングのち天晴れ^{あっぱ}／宮崎県

ぬくもり いろどり さあ!みしょれ〜／鹿児島県

あぁー!っとアートと出会ったと。／岡山県・香川県

パスポートなしの海外旅行入門編／兵庫県

ニューロカリズム

地元や地元愛を指す“local”、女子大生独自の視線をイメージした“ism”、
そして私たちが大学で学ぶ観光“tourism”を併せた“localism”
池田ゼミでは女子大生ならではの視点から地域の魅力を見つけ、発信し
新たな観光・地域づくりのきっかけになればとの思いを込めて
「ニューロカリズム(New-Localism)」という名前をつけました。

「自分たちらしく、そこでしか体験できない何か」を届けたい。
ぜひこのパンフレットを片手に、
まだ知らない「あなたらしい、何か」を探しに行ってみませんか？

-02-

えっと瀬戸の魅力があるがんす〜／広島県

-06-

ハプニングのち天晴れ^{あっぱ}／宮崎県

-10-

ぬくもり いろどり さあ!みしょれ〜／鹿児島県

-14-

あぁー!っとアートと出会ったと。／岡山県・香川県

-18-

パスポートなしの海外旅行入門編／兵庫県

-22-

お土産

-24-

ニューロカグラフ

-28-

Editor's note

special thanks

上河 達郎 様／長野 崇 様／池田 祐希 様／S.K 様／YUKI 様／池田 逸子 様
奇 賜 様／Gaohu 様／hidefumi 様／T.N 様／土井 誠 様／H.F 様
ゼミ活動に関して、ご支援をしていただきました皆様に深く感謝いたします。

私たちの旅のテーマ「エトセトラ」には

「エト(えっと)=たぐさんの」「セトラ=瀬戸達」「エトセトラ=などなど」、

という意味が隠されている。様々な奇跡に囲まれて、

私たちにしか見えない世界に瞳が輝くばかり。

心の踊るほうへと足を進めた先に見えたものは…。

あなたの知らない一味違った広島の魅力に、心躍らせてみませんか??



new localism / hiroshima:hiroshima,onomichi

広島県 / 広島市・尾道市

えっと瀬戸の魅力があるがす～

〈想い溢れるエトセトラ〉

朝から何度確認しても雨予報の広島。「私、雨女なんだよねー」、「私もそうなの!」そんな会話がながれる。広島に近づくにつれ、どんよりと曇っていく空模様にあっという間に不安になる中、「私は晴れ女!!!今から晴らすよ!!!」の元気な声に全員が期待する。広島駅に着くとなんと!!今までの天気か嘘だったかのよう、青空が広がっていた。駅に着いた私たちに「写真、撮りましょうか?」という声。振り返るとそこには外国人観光客の姿が!ふつう声をかける側なのは私達のはずなのに…よほど舞い上がってみえたのかな(*▽*) 駅の外に出て、今回の旅の記念撮影をしに「HIROSHIMA」の Monument へと向かった。気分も天気のように晴れた私たちは、商店街への足取りも軽快になる。広島本通商店街はレトロな雰囲気。商店街を歩くなか、吸い込まれるように入ったお店で広島初食事の「揚げもみじ」!もみじ饅頭を揚げたものだが、普通のもみじ饅頭とはまた違った美味さがあり、新発見の一品だった。ペロ

りとたいらげスイッチが入った私たちは、Instagramで心を奪われ、すぐにgoodspoonへ向かった。焼き釜からのパンの良い香りが鼻を抜け、オシャレな音楽と雰囲気と酔いしていると、瀬戸内レモンの酸味が効いた自家製の夏パスタと新鮮な魚介たっぷりのピザが運ばれてきた。早く味わいたい欲を押し殺し、まずは写真撮影タイム。その後ピザの具材を争ってじゃんけん大会を開催。負けられない闘いがここにあった。美味しすぎて入店してから30分もせずに完食。偶然みつけたお店との出会いは旅の良さだと実感した。幸せなひと時を過ごしていた私達は、縮景園との約束の時間に間に合わないことに気づき、一気に顔が青ざめた。幸せあふれるおなかを抱えながら、初めてきた街を駆け抜ける。縮景園に到着するころにはヘトヘトになっていた。

入園すると、職員の方々が暖かく迎えてくださり、縮景園の歴史や現状、庭園に込められた思いなどを教えていただいた。庭園内は自然



new localism / hiroshima:hiroshima,onomichi



があふれ、まるで水彩画の世界に入り込んだよう。池に近づいて、鯉に餌をあげるふりをしてみると、ぎゅぎゅっと集まってきたのを見て騒いでいると、「G7首脳のパートナーがそこに来たんだよ」と、ボランティアの方に声をかけていただき、私達も同じポーズで撮ってもらうことに！庭園内で海外の方とも交流もでき、旅の面白い思い出になった。

長い時間、暑い屋外を歩き回った私たちの体力は限界に近づき、とにかく冷たいものを欲した私たちはかき氷屋さんへ。色々な味をシェアすればよかったのだが、暑さと疲れからみんな自分のかき氷しか目に映らず、夢中で食べ進めた。かわいい見た目にも満足していたが、かき氷の中からアイスクリームやパンナコッタが登場するというまさかのサプライズ！実際移動や待ち時間で40分ほどかかったけど、その長ささえも苦にならない素敵な時間を過ごせた。

旅1日目のメにいただくのは、広島名物アナゴ飯!!!とはいえ、実はお腹はかき氷でちょうどよく満たされていた。しかし、あなごを焼く香

りと店内の雰囲気食欲はMAX!閉店後にもかかわらず、お店を開けて待っていてくれた店長は、特別に厨房内にも入らせてくれ、普段は見られないアナゴを調理する工程などを見学することができた。赤、白、黒の穴子があり迷っていると、メニューにはないあなごの調理方法が異なる赤と黒が半々にのった特別メニュー”ミックス丼”を用意していただいた。そこまでしてもらえるのかと特別感(▽^)/世間話で盛り上がり、お店への思いなども聞け、まるで親戚のおじちゃんと話しているような、温かい空間だった。私たちはお腹も心も満たされ、1日目の旅を終えた。

〈非日常感と懐かしさのエトセトラ〉

2日目は朝ごはんを買うために早起きからスタート。広島のスルフードのおむすび弁当を買って、今回の旅のテーマ、観光列車”etSETOra”へ乗り込む。列車内で車掌さんや乗務員さんとお話しし、一緒に写真も撮っていただいた。絶景スポットに近づくと、乗客が景



色を堪能できるようにアナウンスとともに列車が停車。美しい景色に見惚れながら、この景色を思い出に残そうとシャッターを何度もきった。列車から景色を見る経験は新鮮で、瀬戸の海もきらきらして見えた。みんなで景色を見ながら食べるお弁当はよりおいしく、日常を忘れられる楽しい時間を過ごせた。尾道駅に到着し、後ろ髪をひかれながらetSETOraから降車すると、地元へ帰省したかのような暖かい出迎えに自然と笑みがこぼれた。駅を出て商店街に古くからある銭湯大和湯へ向かう。ここは最近、銭湯から中華料理屋にリノベーションされたお店。私達は初めて銭湯で中華料理を食べることに!店内に置いてある体重計は食べすぎ注意のため?と思わせるような大満足のランチコースだった。

食後に商店街をぶらぶら歩きながら、山の中腹にある千光寺へ。山頂にある展望台から見える景色は絶景!ということで、まずは頂上を目指してロープウェイに乗車した。その道中、尾道の街並みと瀬戸内海が一望でき、最高のロケーションだった。頂上で降車すると駅長の恋会門のお出迎え。お城のような真っ白な展望台も見えてくる。「恋人の聖地」ということもあり、早速カップルの方と遭遇。暑さを吹き飛ばす幸せなおすそ分けをもらいながら、写真を撮り合った。とても良い方々で幸せになって欲しいと心から思った。帰りは山道を歩いて下り、千光寺に到着。窓口を訪れると境内を案内してくれた。お寺のことをとても考えておられるのが伝わってきた。

〈4人の旅はエトセトラ〉

普段家族や友達と旅に行くときは細かく計画を立てて、決めたところにしか行かない。だけど、今回の旅のテーマはエトセトラ。王道じゃない、いつもだったらのぞかない路地裏や、4人の心の赴くままに余白を楽しむために行った旅。だから、気になった地元の商店街に行ってみたり、海外の方と交流してみたり、計画にないお店にも行ってみたり…。惹かれるままに歩いた広島では、たくさんのことに出会えた。地元の方々も、訪れている観光客の方々も温かく親切な人ばかりで、私たちもとても温かい気持ちになった。広島のアたたかさを肌で感じた旅にもなった。そして、今回のような旅のあり方もいいな、と思った。また広島を旅したいし、違う地域でも今回と同じように路地裏をのぞく旅してみたい。どんな知らない表情を見せてくれるのか、それもまた旅の楽しみ方だね。

SPOT DATE

広島本通商店街

中四国最大のショッピングストリートで、東西577mの通りには200店舗以上の多様なお店が軒を連ね、人通りが常に絶えない。

そば処とんぼ 平和公園店

県内に8店舗展開し、お蕎麦は3玉までは同じ値段。広島公園店ではソウロドリンク「チー坊」、名物「天ぶらもみじ」が味わえる。

goodspoon シミント広島店

ブッラータチーズが乗ったパスタとピザが人気のレストラン。外の景色を見ながら、食事を楽しめる。

縮景園

江戸時代初頭に造営された大名庭園で、四季折々の風情とともに創建当時の変わらぬ景観を今の時代に楽しむことができる。

コオリヤ ユキボウシ

エスプーマのソースや素材にこだわった手作りのソースを使ったかき氷専門店。季節や行事に合わせた限定かき氷も味わえる。

穴子飯 木村屋本店

歴史ある広島のみご飯の味に、寿司の技を掛け合わせた「新しい広島のみご飯」を提供。手間を惜しまず、こだわりの料理が食べられる。

むすびむさし

地元の有名店で、一番人気は「若鶏むすび」。お弁当の包み紙には、市内の主要観光地と店舗地図、広島弁の解説が書かれている。

etSETOra

西日本旅客鉄道が広島～尾道間運行する観光列車。車窓からは瀬戸内海の上を走っているかのような景色を見ることができる。

尾道商店街

全長約1.2kmと日本有数の長さを誇る商店街には約210軒が軒を連ね、独自性のあるショップやカフェ、尾道グルメが集まる。

大和湯

尾道商店街に古くからある銭湯をリノベーションして作られたお店。7品もの料理を味わえる大和湯ランチは、大満足間違いなし。

千光寺

806年に創建され、尾道港を一望する大宝山の中腹、標高140mに位置し、尾道水道沿いの街並みが見渡せる。

MODEL PLAN

DAY 1

- 09:20 博多駅発(新幹線)
- 10:30 広島到着
- 11:50 広島本通商店街
- 12:15 そば処とんぼ 平和公園店
- 12:50 goodspoon シミント広島店
- 14:30 縮景園
- 17:00 コオリヤ ユキボウシ
- 18:30 穴子飯 木村屋本店
- 21:30 KOKO HOTEL 広島駅前

DAY 2

- 08:45 むすびむさし ekieおみやげ館店
- 09:30 (広島駅)etSETOra乗車
- 12:30 (尾道駅)etSETOra降車
- 13:00 尾道商店街
- 13:20 大和湯
- 15:20 千光寺
- 19:20 新尾道駅発(新幹線)
- 21:50 博多到着

地図はこちらから





宮崎といえはなんだろうか。青い海、南国、チキン南蛮、そんなイメージばかりが思い浮かんでいた。

実際に訪れてみると、太陽に照らされて輝く水面、草木の緑と青空の鮮やかさ、美味しいご飯など

イメージ通りではありながらも、その想像の何倍も素敵な世界が広がっていた。

そして何よりも私たちの心を動かしたのは、

抱いた感情を今でも鮮明に思い出せるほど温かな『人』だった。



宮崎県 / 高千穂・延岡・青島

あっぱ ハプニングのち天晴れ

旅1日目の朝は、高千穂で神社巡りや滝などの自然に触れ、神秘的な空間に包まれた。深く鮮やかな緑に囲まれて、まるで世界が変わったみたい。朝の時点では中止だった川下り体験。天候に振り回されながらも、なんとか体験を行えた。思うように進まない私たち。スタッフさんが見兼ねて電動ボートで助けてくださった。そうして、普段の旅行なら連れとだけで終わる会話も、ここでは他のボートに乗るお客さんやスタッフさんとの交流の場になっていった。苦戦した川下りも私たちの成長の一つだと思う。心地よい風を感じながら滝が流れる空間での流しそうめん。つるつるの素麺と薬味の効いた出汁の相性は完璧で、それに流しそうめんならではの清涼感が加わる。家で食べるそうめんとは大違いで、箸が止まらなかった。神社でお参りをし、高千穂での目的を果たした私たちは、経由地である延岡駅を目指そうとした。その時突然のゲリラ豪雨が!激しい雨

のせいでタクシーが捕まらず、高速バスの乗り遅れも確定してしまった。これはこの後の行程にも響くほどの大事件で、不安と焦りでいっぱいになっていった。しかし、ここから2人の救世主との新たな出会いにも繋がる。まず最初の救世主は、警備のおじさん。何も言っていないがきっと私たちの焦りが溢れ出ていたのだろう。「どうした?」と柔らかい宮崎弁で話しかけてくれた。事情を話すと、遅れてやってくるタクシーになんとか延岡駅に着くよう交渉してくれるとのこと。不安の中の私たちの事情を汲み取ってくれ、ベストの解決策を出してくれたことに頭が上がりなかった。そしてもう1人の救世主は、神和タクシーの運転手さん。高速バスを追いかけるように運転してもらった話が、最終目的の延岡駅まで破格の値段で送り届けてくれることになった。不幸中の幸いとはまさにこの事だ!とつい友達と顔を見合わせてしまった。





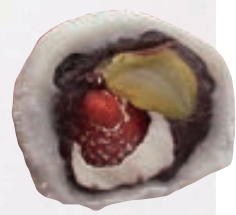
乗車中は私たちも調べきれなかった
インターネットにはない

日本神話と高千穂の関係を話してくれた。
しかも話し方がうまく、面白おかしいその話はさっきまでの
焦りを忘れさせるほどだった。あっという間に延岡駅に着き、
少し寂しさが残るほどワクワクした時間だった。
名刺を貰うと、、、まさかの社長さんであることを知り、
かなり驚いたと同時に、フレンドリーに接しすぎたのではないかと
少し不安になった。為す術なしの私たちにここまで
ラッキーをくれた社長さんは、きっと従業員さんにも
慕われているんだろうな。

そんなことを初対面でも思えるくらい素敵な出会いだった。
ハプニングだらけの初日が穏やかに終わり、
ほっとした気持ちでホテルで安息をとることが出来た。
旅2日目は、宮崎の新たな名物となったプリン専門店、
南国プリンへ向かい、糖分チャージからスタート！
移動中は眠たそうにしていたが、可愛くてレトロな外装に
テンションが一気に上がった。

「こんにちは」と穏やかな笑顔で迎えてくださったのは店主さん。
事前のやり取りからも優しさや温かさを感じていたが、
実際に会ってもなんだか初めてじゃないような
居心地の良さだった。そして美味しそうな色とりどりの
プリンを目の前にして、思わず笑みがこぼれる。
どのプリンも美味しそうでなかなか決められなかったが、
結局ほぼ全種類を購入！店内で食べたいと伝えると、
「キャリーケースは預かりますよ」と優しいお声がけをしてくださった。
ベンチやプランコが置かれたレトロ可愛い店内で、
どこが映えるのか探りながらたくさん写真を撮った。
そして待ちに待った南国プリン。とろける優しい甘さに癒される。

帰り際には別のスタッフさんにも、
宮崎について色々お話を聞くことができた。
記念に4人でお揃いの南国プリンのステッカーを買って、
今でもスマホケースに挟んでいる。
スマホを見る度に宮崎の思い出が蘇るのが
なんだか嬉しい。



空港から出ている青島行きのバスを、マンゴージュスを飲みながら待つ私たち。バス
に乗り込み窓から見えるのは、列を成すヤシの木と散歩をしている地元の人たち、時々
垣間見えるキラキラの水平線。私たちから見える情報全てが交わった様子はまるでリ
ゾート。どの瞬間を切り抜いてもエモい。そしてこの瞬間は、今ここにいる私たちだけし
か見ることのできない特別な思い出。

青島はキラキラした波と、ゴツゴツして自然の不思議を感じる鬼の洗濯板とのコントラ
ストが圧巻。青島神社では願い事を胸にお皿を投げる。みんなあてることは出来ずに
しょんぼり。それから初めてのトクトク体験。青島ならではの地層や、南国の木々をド
ライブ感覚で楽しむことが出来た。焼け付く暑さの中で運転手のお兄さんも大変なはず
なのに、終始笑顔で楽しませてくださって、青島に負けにくいくらい明るく元気いっばいで
旅の疲れを癒してくれるかのように私たちを運んでくれた。なんと行っても去っていく姿
がカッコよかった。これを無料で行っているところに、なんとなく宮崎の優しさが込めら
れているようだった。

私たちが初めて訪れた南の国宮崎。尋常じゃない暑い気候と突然のハプニングに振り
回されながらも、その場所毎で数え切れない人の温かさに触れることが出来た。
ピンチの連続はある意味、救世主から救世主のバトンタッチのように感じ、まるで縁(円)
が繋がっているよう。

普段は触れ合えない青々しい熱帯雨林などの自然の豊かさと、少しお節介で、でもその
距離感が心地よい人柄の豊かさは、この旅で感じた最高のお土産だった。

SPOT DATE
千穂の家 元祖流しそうめん
流しそうめんが体験出来る特別な場所！お出汁は薬味が効いて
いて夏バテも吹っ飛ばすこと間違いなし。

高千穂峡
川を下っていくにつれ神秘的な空間へと誘われる。夏でもひん
やりとした空気が感じられ、心も体も浄化した気持ちに！

天岩戸神社
神話の舞台であり、目の前に広がる景色は神秘さを超えるもの
だった。シンとした空気が心地よく神々に近づけたような貴重な
体験ができる。

お菓子の日高
宮崎の有名なお菓子屋さん。和・洋豊富なお菓子を取り揃え、
果物がゴロッと入った「なんじゃこら大福」や「チーズ饅頭」が
大人気！

宮崎観光ホテル
お城のような内観と落ち着くお部屋、そして温泉で癒しの一晚
を過ごせる。館内の自動販売機には宮崎限定の飲み物も？！

南国プリン
宮崎県の新たな名物となったレトロなプリン専門店。色とりどり
のなめらかなプリンとインスタ映えする内装で可愛さ満点！！

宮崎水果店
青島にあるかき氷屋。ハワイアンな店内とシロップまで自家製
で無添加にこだわった大きなかき氷が、暑さを和らげてくれる。

青島神社
圧倒的存在感の朱色の本殿と青空や緑の木々とのコントラスト
はここにはない景色。古代祭祀にいらった多数の願掛け神事
が存在。

鬼の洗濯板
青島の周りを囲む幻想的な形をした波状岩。潮が引くと岩の上
に立つことができ、磯遊びも楽しめる！

MODEL PLAN
DAY 1
07:45 天神高速バスターミナル
11:50 高千穂観光案内所
12:10 千穂の家 元祖流しそうめん
13:30 高千穂峡川下り
14:20 天岩戸神社
15:15 高千穂発
17:00 延岡駅発
18:41 宮崎駅着
19:00 宮崎観光ホテル
19:30 ニシタチ「ぐんけい本店 隠蔵」
22:00 ホテル

DAY 2
08:45 朝ごはん
09:40 チェックアウト
10:15 南国プリン
11:40 宮崎空港着
12:45 青島
13:00 宮崎水果店
13:40 青島神社
15:00 surf cafe ulu
17:44 宮崎空港
20:30 福岡空港着

地図はこちらから



“爽快な空の青” “澄み渡る海のターコイズブルー”

“存在感ある空港の壁文字の真青” “みしょれ〜ガチャのストラップの深い青”...

青だけでこんなに色があるのに、奄美はそれ以上に私達の旅を無数の色で彩ってくれた。

奄美に住んでいる人だからこそその優しさに触れ、チームのみんなの優しさにも触れ、

自分の感情が揺れ動くことを知り、世界の彩りにも気付いた。

気温もあたたかければ、人もあたたかい。

夏を近道したような、人生の拠り所のような、そんな場所だった。

AMAMI



鹿児島県 / 奄美大島

ぬくもり いろどり さあ!みしょれ〜

真っ白なワンピースを纏い(奄美空港)に到着。胸の高鳴りに身を任せ、早速狙っていた空港の屋上にある壁文字との撮影へ。空の青と(AMAMI)の青が最高に輝いていて、「満足やない?帰る?(笑)」と言ったほど。期待を裏切らない最高のスタート。胸を躍らせながら(しまバス)に乗っていざ出発〜!

バスを降りた瞬間からハイビスカス、木陰にあるブランコ、エメラルドグリーンの海的美しさが際立つ(ばしゃ山村)。一気に南国を感じる場所。透き通る海の青さに、シャッターが止まらない。ウミガメとの待ち合わせの時間になったので、海へ。魚やハートの形の石を見ながら泳いでいると、ついにあの子が!そう、ウミガメ。海藻をパクパク食べるウミガメの姿はあまりに愛おしく、私たちの心を癒してくれた。またいつか待ち合わせしようね、ウミガメさん♡

ウミガメさんとお別れして、私達がランチに選んだのは(きょうらうみ工房)。島の食材を味わいたい私たちは、鶏飯・島もずくの二種類のピッツアを注文。美味しいのはもちろん、特に島もずくの食感が面白く、ピザでしか味わえない焼いたもずくが新たな発見になった。店長さんにご挨拶をした際、「こっちにおいて〜」と黒糖づくりの見学と、搾りたてのさとうきびジュースを飲ませていただいた。予想外のサプライズ。早速、人のあたたかみを感じた瞬間だった。

ばしゃ山村を後にした私たちは、しまバスに乗り名瀬商店街へ。まずは、行きたいお店リストに入れていた(DUGWOODSAND)にGO!

素敵な店内のなかでも、私たちにとって圧倒的に輝いて見えたのが奄美の特産物キーホルダーが出るガチャガチャ。私たちは見つけるや否や子供の頃の“あの時”に戻ったような無邪気さで、ガチャガチャを回して盛り上がった。ガチャガチャを引き終わると、お店の方が「お店のインスタグラムに載せたいので写真を撮らせてほしい」と言ってくださった。(DUGWOODSAND)はなんととっても、お店を営むご夫婦とにかくかきかかれた。「また来たい」そう思えるあたたかなお店。

ご夫婦に挨拶をし店を出た後、ふと向かいのお店が目に入った。そのお洒落さに惹かれてすぐ入店した(okuruamami)。素敵なお土産を買った後、私たちはここでサイダーをこぼしたり瓶を割ってしまったりとハプニングだらけで色々迷惑をかけてしまったのだが、そのたびに店員さんが外に出てきて片づけてくださった。優しすぎる...改めて感謝を伝えたいお店。

商店街を散策し、夜ご飯は奄美名物鶏飯を食べに(鳥しん)へ。まずは太陽をそのまま落とし込んだような色の(たんかんジュース)で乾杯。大本命(鶏飯)はそれぞれの具材の旨味を味わいながら最後はお出汁と一緒にかきこむ。シュノーケリングで疲れ切っていた私達には、染みる美味しさだった。鶏飯以外の(油ソメン)〈豚みそ漬け〉〈もものひらき〉も、鹿児島島特有の甘めの味付けが九州人にとっては馴染み深く、大好きな味だった。





その帰り道に見た夕焼けの空。思わず息を吞んでしまうような、そんな存在感をもった入道雲。夕焼けに染まり、言葉では言い表せない素敵さ。私達は時間の流れを忘れてしまうほど、その雲に惚れていた。同じ形同じ色の雲はこれから先見ることはない。だから忘れないようにしたい。この雲も、この旅も。

宿泊するゲストハウスに到着。ドアを開けると「おかえり〜!」の一言が。「ああ、もう好きだ、この空間。」心がじんわりする。お話がしたくてリビングに行くと、たくさんの奄美の食べ物でおもてなしをいただいた。濃くて濃くて仕方ないおしゃべりタイムで、ひろえママ、利香さん、あすかさん、年齢も生まれた場所も違うのに、なんだか懐かしくてずっと前から友だちだった感覚。黒糖焼酎で乾杯して、方言講座を受けて、流れ星を数えて...楽しいことに体力と五感を120%使えた一日だと感じた時にはもう夢の中だった。

翌朝お別れの時、今日もここに帰ってくるかのように「行ってらっしゃ

い!」「いきます」と言葉を交わした。人のあたたかさを受け続けたゲストハウス。絶対にここにまた帰ってこよう、そう思えた。

しまバスに乗り、奄美大島の超名物店(ビッグII)へ。照りつける太陽のおかげからなのか、存在感がすごいからなのか分からないが、とんでもなく黄々しい看板が見えてきた。「来た、ビッグIIだよ...!!」つい声が漏れる。ローカススーパーでここまでハイテンションになったのはきっと私たちだけだろう。そんな勢いで奄美料理パーティーを開催。3時間も滞在して奄美ワールドを存分に楽しめたビッグII。それぞれ思い思いにオリジナルTシャツも着て、この時が一番奄美に染まっていたかも。

ゴロゴロとキャリーバッグを引っ張って(夢おりの郷)へ。奄美の伝統工芸(泥染)を体験。おっちゃんが手際よく教えてくれ、今までたくさんの方と触れ合っているからか、いろんな所から貫禄を感じた(特に手!)。おっちゃんのあたたかい方言と癖の強さで、もうなんか分からないけどちょっとタメ口になっちゃってた。泥染をしに来たのにおっちゃんのほうが記憶に残ってるな〜(笑)

一日目は何にも染まっていない私達を表した真っ白なワンピース。行く先々でたくさんの色に囲まれた景色によってワンピースが化学反応を起こし、もはや私達には真っ白なワンピースもお互い「虹色」に見えていた。旅をしていくと、小物でさらに色が増えていき、食べ物でも色補給を欠かせない。二日目はビッグII Tシャツの色味が主張を強くし、泥染体験をして奄美染まり完了! 私たちの心のキャンパスも色とりどりになっていく。「心で感じた人のあたたかさの色」と「目で見た鮮やかな色」が混ざりあい、いつの間にか身も心も奄美色に彩られていた。無数の色に染まり、人のあたたかさに満たされた奄美大島。次はまだ知らない人や色にも出逢いたい!! 次はいつ帰ろうかなあ...

奄美のみんな、ありがっさまりょうた〜!!

この背景は私たちが実際に見た星空です



SPOT DATE

奄美きよら海工房

海が見渡せる開放的なテラスがあるカフェ。島の食材を使った出来立てピッツァや、奄美のフルーツを使ったジュースも楽しめる。さとうきびから作る純黒糖製造の見学や、お土産も購入可能。

マリンドイツ奄美/ばしゃ山村

ばしゃ山村にある、マリンスポーツが体験できるお店。シュノーケルツアーでは、高確率でウミガメと会える。奄美の海を肌で感じることができ、空港からのアクセスも抜群。

DUGWOODSAND

名瀬にあるセレクトショップ。オリジナルステッカーや缶バッジ、奄美の特産物が描かれたキーホルダーが出る「ガチャガチャ」など、奄美ローカルグッズが大人気プレゼントやお土産にも◎

okuruamami

なげまち商店街にある奄美のモノにこだわっているギフトショップ。食べ物のギフトからハンドメイド雑貨まで取り揃え、オリジナルのラッピングで全国配送も可能。

鳥しん

鶏飯を中心とした郷土料理が味わえる地元客にも人気な名店。鳥料理にもこだわっており、「ものひらき」がおすすめ!奄美の郷土料理をいただくなら是非(鳥しん)で!

ゲストハウス奄美ロングビーチII

大浜海浜公園の近くにあるゲストハウス。2022年にオープンしたばかりで、ゲストハウスを営むオーナーとの交流が楽しめる。早起きするドラジョオ体操もできちゃう!

たっちゃんのジェラート

10種類以上の鳥の素材を使用したイタリアンジェラートのお店。人気No.1の(さんご塩)は癖になる一品!店主のたっちゃんが描かれた看板が目印。

ビッグII

奄美大島のローカススーパー。存在感抜群の黄色の看板が目印。品揃え豊富で、見ているだけでワクワクできる。お土産コーナーのオリジナルTシャツはファンも多く、芸能人も御用達♡

夢おりの郷

本場奄美大島体験テーマパーク。大島紬の着付体験・泥染体験・はたおり体験などが楽しめる。雨の日でも体験できるのが嬉しいポイント!大島紬小物も販売あり!

MODEL PLAN

DAY 1

- 07:05 福岡空港発
- 08:15 奄美空港着
- 09:00 ばしゃ山村
- 11:00 きょうろみ工房
- 13:00 ばしゃ山マリンドイツ奄美
- 16:15 名瀬商店街
- 17:50 鳥しん
- 19:30 ゲストハウス奄美ロングビーチII

DAY 2

- 10:10 出発
- 11:00 たっちゃんのジェラート
- 12:10 ビッグII
- 15:10 夢おりの郷
- 18:25 奄美空港発
- 19:25 鹿児島空港着
- 20:59 鹿児島中央駅発
- 22:45 博多駅着

地図はこちらから





皆さんは「アート」を巡る旅をしたことがありますか？

今まで美術の授業などでしか触れてこなかったアート。

そんな、アート初心者私たちが今回、アートに触れる旅に行った。

美術館とは違う、島全体、街全体がアートの地。

さて、どんなアートに出会えるのだろうか。

私たちにとってアートとは何なのだろうか。

あー！っと アートと 出会ったと。

THE夏日。快晴。

私たちが出会った初めてのアートは草間彌生さんの〈赤かぼちゃ〉。旅への期待と楽しみからなのか、想像していたよりも大きく感じた。地面の緑が畑を連想させ、まるでそこで育ったかのように思わせてくれた。また背景の青空が赤かぼちゃをさらに引き立たせ、太陽の日差しが赤色を鮮やかに照らしていた。私たちの心も高揚し、旅のスタートにはぴったりすぎるアートだった。

次に出会ったのは三角形がつなぎ合わさったオブジェの〈直島パヴィリオン〉。青空をバックにすると、まるで大きな雲のように見えてはしゃぐ子もいれば、オブジェの無機質さが自然と融合し異質だと感じる子もいた。



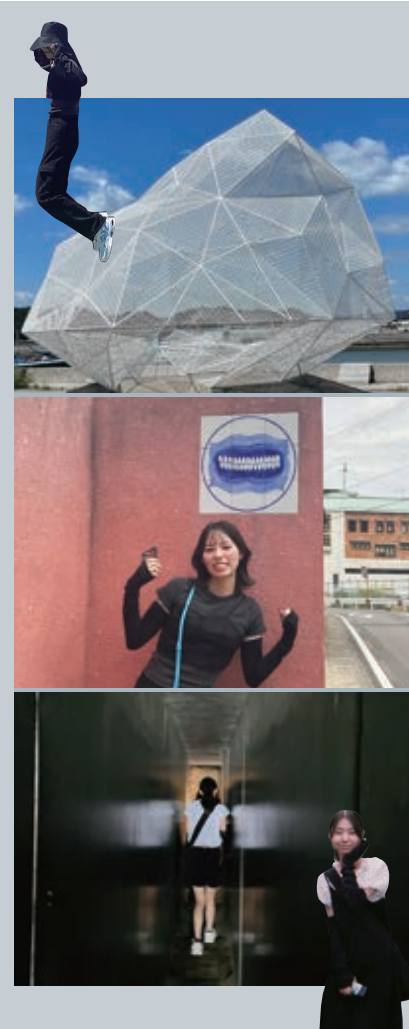
岡山県・香川県 / 倉敷・直島

曇天。

次に訪れたのは〈護王神社〉。最初に目に入った光景は、松の中にひっそりと佇む神社。天気が曇っていたからか、より落ち着いた雰囲気を感じた。神社の地下にある洞窟には、ガラスでできた階段が地上からつながっていた。地下はサウナのように蒸し暑く、天気が曇っていたため光が差し込まず、階段の美しさよりも洞窟の閉鎖感を強く感じてしまった。地上の階段は、周りの木や石を反射させ見る角度によって全く違った色をしていた。木の隙間から見える灰色の空によってより深みのある緑の木々と、地面に広がる白い小石達に挟まれた護王神社は、まるで宙に浮いているようだった。

鉛空。

黒い雲が厚く重なり陰鬱な空の下で見る〈はいしゃ〉は、異様な雰囲気を感じていた。建物の中、外含め全体がアート作品になっており、中にどっしりと佇む自由の女神がひととき存在感を放っていた。建物の照明が赤や緑に色付き、湿度の高い空気の中でぼうと光が浮き上がっているように感じた。ピンク色の建物を囲う塀には無数の歯が埋め込まれていて、天気の良いか更にゾワとする作品になっていた。



天候。霧雨。

どうしても見たかった〈南瓜〉。島の反対側を目指して、初めての電動自転車に戸惑いながら自転車を漕いだ。しかし、汗ではない何かが頬に触れた。雨だ。あんなに晴れていた太陽は顔を隠し、泣く泣く引き返した。キラキラと輝いていた青い海は一変し、暗いオーラを纏った灰色の海へと変化していた。

豪雨。

それでも引き返す途中で雨宿りをしようと思った先は、まさかのアートだった!?それは〈直島港ターミナル〉。雲のようにも葡萄のようにも見える球体の塊。雨に打たれる姿が、まるで泣いているようにも見えた。ざっと晴れていたなら、空に浮かぶ雲のように見えていたのかもしれない。私たちが豪雨から守ってくれてありがとう。帰りのフェリーで見た夕日の美しさで、どこか労われたような感覚になった。

その日の夜、倉敷にあるホテルに着き夜ご飯を食べに外に出た。そして、明日行く倉敷美観地区をちょっと通ってみることに。夜の倉敷は、白壁の古風な街並みがオレンジ色の街灯によって温かみのある光に照らされていて、はっきりと映し出されない、ぼやけた街並みとなっていて不思議な感覚になりながら歩いた。





私たちらしい
備前焼完成!



食べ歩きスポット
いっぱいあったよー!



20時頃には美観地区のお店はほとんど閉まっていた、人通りも少なかった。夜の暗さと街灯に照らされた美観地区は、私たちを異国の街に迷い込ませてくれたかのようだった。

翌朝、私たちはモーニングを食べに外に出た。朝の美観地区は、昨日の白とはまた違ってまっさらな白で溢れていた。昨夜のぼやけた幻想的な街並みとは変わり、朝日に照らされた美観地区は建物の白さと、柳の緑がはっきりと照らされて爽やかであった。朝食は、コーヒーの香りに包まれたサイフォンが並ぶ昔ながらの喫茶店で、ゆったりとした時間を過ごすことができた。雰囲気の良いさに圧倒されて、ゆで卵の殻を剥く手さえ震えるほど素敵な空間だった。

朝食を済ませ、訪れたのは備前焼体験。目の前に置かれた灰色の粘土を思い思いにこねていたが、これが難しい。初めに思い描いた形とは全く違った作品が完成。焼きあがると灰色は一変して、温かみのあるベージュやオレンジに仕上がった。同じ量の粘土から同じ道具を使って作ったはずなのに、コップやお皿、一つとして同じものではない備前焼ならではの魅力を大いに感じられた。出来上がった作品を見ると、いつでもこの時を思い出せるだろう。

屋の倉敷は、観光客も増え多くの人でにぎわっていた。白壁の蔵屋敷と柳並木の間には川があり、川の上にはゆったりと渡し舟が流れていた。そんな趣ある景観に、私たちは魅了されていた。食べ歩きスポットもたくさんあり、お土産もたくさん買えた! 倉敷は、どの場面を切り取っても絵になる、町全体が被写体になれる場所で、想像以上に美しい街だった。普段あまり写真を撮らない私たちが、自然とシャッターを向け写真を撮らなくなってしまうほど、そんな場所だった。



エマニュエル・ムホー「100 colors no.46」

アートって…

今回私たちは様々な天候とともにアート作品を見ることによって、美術館内の作品とは違う野外作品における自然との関係性と重要さを感じた。天候によっても、またアートを鑑賞する際のその人の心情や見方によっても、同じ作品の見え方・感じ方が異なっていた。アートはすべての事象から同じものは二度と見ることができない、唯一無二の作品となるのだと思った。アートは難しいけれども、捉え方に正解も不正解もないのだと考えた。アートって奥深いね、…。

SPOT DATE

赤かぼちゃ

宮浦港で歓迎してくれる水玉の真っ赤なかぼちゃの作品は、中に入って撮影することもでき、撮影スポットとしても人気の場所。

直島バヴィリオン

白のステンレス製メッシュで作られた浮遊感のある作品。27の島々で構成される直島町の28番目の島というコンセプトで、浮島現象をかたどる。中に入ることもでき、夜のライトアップも幻想的。

カフェサロン中奥

ぬくもりのある和風の店内で、ゆっくりとした時間をすごせる古民家カフェ。3種類のオムライスとキッシュや手作りスイーツなどはどれも絶品で、アートを堪能した後の一休みにおすすめ。

家プロジェクト

古い家屋、神社等を改修し、人が住んでいた頃の時間と記憶を織り交ぜながら、アーティストが家・空間そのものを作品化するアートプロジェクト。来島者と住民との新たな交流も特徴。

家プロジェクト角屋

200年ほど前に建てられた家屋を修復し、宮島達男氏の数字が題材となった作品が並び、直島の人々が製作にも参加し、現代アートが地域の人々の生活に入り込むきっかけとなった作品。

家プロジェクト護王神社

江戸時代から祀られている護王神社の改築にあわせ本殿と拝殿、地下の石室が設計されている。透明のガラスで出来た階段が地下から地上の神社まで続き、神秘的な雰囲気漂わせる。

家プロジェクトはいしや

かつて歯科医院兼住居であった建物を、廃船部品や鉄塔など様々なものを取り付ける等、大竹伸朗氏がまるごと作品化。多様なスタイルが盛り込まれており、家全体が一つのインスタレーション作品。

直島港ターミナル

誰でも船のり場がわかるよう、格子状に組んだ木の柱梁の上に、球体のFRPをランダムに積み上げて、入道雲のような立体的な形が施されている。昼は外光から、夜は照明で幻想的な雰囲気!

倉敷うどん ぶっかけふるいち仲店

創業70年を超える、岡山県倉敷市を中心に展開するぶっかけうどん発祥の店。ぶっかけうどんだけでなく、たくさんのメニューがあるのが特徴的! 麺はコシと弾力があり、一本一本食べ応えがある。

愛美工房陶芸教室

ホテル倉敷アイビスクエアの施設内にある、気軽に備前焼体験ができる施設。他にも絵付けや手びねりなど様々な焼き物の体験が可能で、地元の方から観光客まで楽しむことができる。

MODEL PLAN

DAY 1 香川県 直島

- 08:00 博多発
- 09:55 岡山駅
- 11:00 宇野港発
- 11:20 直島(宮浦港)着
- 11:25 かぼちゃ
- 11:45 直島銭湯「I♡湯」
- 12:30 ランチ「カフェサロン中奥」
- 13:30 家プロジェクト
- 18:10 直島(本村港)発
- 19:25 アイビスクエア倉敷
- 19:40 ふるいちうどん仲店
- 20:30 ホテル
- 22:00 消灯

DAY 2 岡山県 倉敷市

- 11:00 備前焼体験
- 13:00 食べ歩き
- 14:30 デニムストリート
- 15:30 桃太郎のからくり博物館
- 18:48 岡山発(新幹線)
- 20:30 博多着

地図はこちらから





私たちが旅行で大事にするものは食!ということで、

この旅は食い倒れの旅にすることにした。

美味しいものを食べ歩き中で素敵な出会いにも触れ、

異国情緒あふれる神戸に魅了され、大満足。

国内にいながら外国気分を味わえる

お手軽な旅に行ってみませんか?

new localism / hyogo:kobe



パスポートなしの 海外旅行入門編

食べ歩き1日目。神戸に着いて最初の観光と食!天気も良い上、中華街の熱気で自分たちが蒸されている気分になった。とにかくお腹が空いていたので、目にとまったフルーツ飴を購入!中華街に来てまで誘惑に負けた、、、フルーツ飴では到底お腹は満たされず、角煮まんを買った。角煮は熱々でとろけてとても美味しく、つい2個も食べてしまった!そして中華街といえ!ということで、普通の小籠包と焼き小籠包の食べ比べをした。肉汁があふれて最高だった~『食べてばかりじゃん(笑)』。北京ダックも気になっていたので食べてみると、大きな肉がもちもちな皮に包まれているというイメージとは違い、びっくり!!日陰で食べてると、鳩がたくさん寄って来て、食べ歩きあるあるを感じた。旅行計画を立てるときに気になっていた写真スポットを偶然発見し、みんなで撮ることができ感動した!中華街の後は電車に乗ってフロイドリーブへ。駅から想像よりも遠すぎて、みんなの口癖は「あとどれくらいで着く?」だった。そんなこんなでやっと到着!元々教会であったことから赤レンガで存在感のある建物だと思っていたが、グレーのレンガで作られていて予想外!入ると真っ白な内装で、まるでヨーロッパにいるみたいだった。建物内のカフェにはスタンドグラスがあり、天井が高く教会の面影が残っていた。マダムがゆっくりとお茶をしていて、地元の人憩いの場なのかなと思った。お通しがクッキーということで私たちも

マダムに混じった気分。しっかり休憩でき、予約していたドイツ料理店ニューミュンヘンに到着『「ずっと食べてない?って思うよね笑』。8階建てのビルで高級レストランみたいな建て構えだったけど、地元で愛されているチェーン店で年齢層が広がった。ヨーロッパの民族衣装のようなメイド服を着た店員さんに案内してもらい、まずはお酒を注文。歩き疲れた体にお酒がしみこみ、すぐ酔いが回りそうだった。「お酒には絶対これ!」と選んだ生ハムとチーズの盛り合わせや、お目当てである5種類のソーセージを食べ比べ、「もう1個頼む?」と悩むほど絶品。お店を出ると外は暗く、蒸し暑かった昼間とは一転して涼しく夜風に当たりながら散歩をしたくなった。また、DAIMARUやケーニスクローネなどの建物からの明かりは、より華やかだった。夜景を見るために地下鉄に乗り景色を一望できる神戸ハーバーランドに向かっていると、電灯よりも輝いている満月がとても綺麗で印象的。神戸ハーバーランドにあった観覧車に、イルカや星などのアニメーションが映し出され、その写真を撮るのに必死だった。神戸ハーバーランドの景色に感動し時間を忘れ、ゲストハウスへのチェックイン時間に遅れてしまったが、やさしく温かく迎えてくれた。部屋に案内してもらい、中華街で買ったパンダのアイマスクで写真撮影をして、すぐに就寝。1日目は移動と歩きまわりでみんなお疲れでした。

new localism / hyogo:kobe



兵庫県 / 神戸





SPOT DATE

南京町
日本三大中華街の一つ。中国風の意匠を特徴とする建物が並び、異国情緒あふれる町並みには、本格的な中華料理の名店から、食べ歩きが楽しめるカジュアルな店が揃う。

フロインドリーブ
教会をリノベーションしたSHOP&カフェ。隣接の工場で朝焼き上がった食パンを使ったサンドイッチがオススメ! 神聖な教会で気品あふれるティータイムが楽しめる。

ニューミュンヘン
「本当においしい!」にとことんこだわった地ビールが楽しめるビアバー。欧風の温かみを感じる店内は、観光客・地元客問わず賑わいを魅せる人気店。

ハーバーランド
大型複合施設が充実している神戸有数のショッピング・観光エリア。夜にはライトアップやイルミネーションが点灯し、絶景のモザイク大観覧車も魅力!

ゲストハウス萬家
診療所をリノベーションした、神戸の「ふつう」が楽しめる地域密着型のゲストハウス。オーナーのバクさんの人柄が溢れ、思わず住みたくなる場所。

水道筋商店街
摩耶山に臨む場所に500余の店が集まる神戸有数の商店街。水道筋は実はニクネームであり、レトロでどこか懐かしく暖かな空気が感じられる。

有馬温泉
太閤・秀吉が愛した、日本三古泉の一つ。アクセスが良く、都会の喧騒を忘れさせる関西の奥座敷として、数多くの人々から愛されてきた温泉。

北野異人館
明治時代、欧米人が居住するための外国人居留地として誕生した西洋館。坂を上っていくと海を見下ろす高台となっており、異国文化と歴史が感じられる。

MODEL PLAN

- DAY 1**
- 10:15 博多駅発
 - 12:29 新神戸到着
 - 13:20 南京町
 - 15:30 フロインドリーブ
 - 18:00 ニューミュンヘン
 - 20:00 ハーバーランド
 - 21:10 ゲストハウス萬家
- DAY 2**
- 11:00 ゲストハウスの人と交流
水道筋商店街散策
 - 13:00 有馬温泉
 - 16:00 北野異人館
 - 18:33 新神戸到着
 - 20:59 博多駅着

神戸旅行2日目は朝から、ゲストハウスに泊まっていたオランダの方が作ってくれたパンナクックを食べた。モチモチクレープ生地にベーコンとチーズを乗せ、最後にはメープルシロップをかけて完成! 塩気と甘味がマッチし、やみつきになる美味しさだった。その後、もともとは診療所だったところを、地元民の協力を得ながら夢だった「地域密着型ゲストハウス」を作った話をオーナーのバクさんから聞き、この場所を建てた熱い想いを感じた。だからこそゲストハウスのロゴは摩耶山、観覧車、ゲストハウスを描いているとのこと! そのあと、バクさんのおすすめのパン屋さんに行ったが、残念ながら臨時休業だった。がっかりしていると「じゃあ違うところを案内する!」と、水道筋商店街を散策することに! バクさんを知っている人に多く会い、またバクさんの人柄の良さを感じ

た。予定よりも1時間押したため、急いで次の目的地「有馬温泉」へと向かった。有馬口駅から有馬温泉駅に続く道は、森の中を電車が走っているかのようだった。福岡では体験できない非日常の景色でわくわくした。温泉街を歩いていると、雰囲気があり木造の建物ばかりが立ち並び、落ち着きがあった。そして有馬温泉に到着すると食べ歩きがスタート! その1食目は、職さんの言葉に引き寄せられ、有馬温泉名物・炭酸せんべいを実食。目の前で焼いてくれて、出来立てのおせんべいが食べられるのだ。出来たては柔らかいのが特徴で、時間がたつと固くなるが、その分甘さが増すとのこと。次は団子屋さんへ! 各々、かりんとう饅頭や水まんじゅうなどを購入し、涼しい店内で食べて一息ついた。次は神戸といえば、定番の「明石焼き」を食べに! お店は混んでいて15分

程度待った。あまりの暑さに、お店に座って涼むだけでも幸せを感じた。もうお腹もベコベコで、みんな無言で食べていた。たこ焼きとは違い、とても薄手で優しい味だったが、味変で塩やゆず塩、ソースをつけると、また違う楽しみがたくさん! 食べ歩きでお腹いっぱいになり、参道で買ったお土産を片手に、ラムネを飲んだり、溶けないアイス「くずパー」を食べながら駅まで向かい、有馬温泉の食べ歩きが終了! 本当は足湯にも入るつもりだったけど、人が多くて断念、また次の機会に! そして、お土産を買うために向かったのが、この旅最後の目的地「北野異人館」。傾斜の凄い坂を上り、それぞれ買いたいお土産を選び、新神戸駅に向かった。駅弁も選び、新幹線に乗り! 出発と同時に、最後の神戸飯を堪能。兵庫で大人気の駅弁「ひっぱりだこ飯」を食べて爆睡! たくさん歩いて、たくさん食べて、少女に戻ったような旅だった。

私たちは食を求めて神戸を訪れた。しかし、食よりもそれぞれの観光地の雰囲気特に魅了された。だからこそ、私たちはこの神戸旅行を「海外旅行入門編!」と名付けた! なぜなら神戸と言えば中華街=中国のイメージがあったけど、実はそれだけではなかったからだ。例えばミュンヘンというドイツ料理屋さんに行った。そこの定員さんの制服や黒ビール、外観などからはメディアなどでよく見るドイツの雰囲気を体感し、異国に触れることができた瞬間だった。この他にも中華街や北野異人館などでも、『神戸』というひとつの都市で各国の文化の側面を体験でき、心まで私たちはお腹いっぱいになった。このように日本に居ながら、食べ物以外でも様々な国の文化を体験できるなんて『まさに異国情緒神戸!』これから外国に行くことがあったら、この神戸旅行よりも、もっと本物の文化に触れることにも挑戦してみたい!



地図はこちらから



souvenir

お土産いろいろ

お土産選びも、旅の醍醐味。

自分のために、あの人のために、旅の思い出をもっと豊かに。

ここでしか買えないモノから、定番モノまで。

旅をした時に、感じた気持ちを込めて買ってきました。

わたし達オススメのお土産を紹介します。



広島弁 タルトクッキー

「ぶちうまい」「じゃけえ」などの広島弁が書かれたクッキー。ホワイトチョコレート、ミルクチョコレート、さくさくクッキーの3つの味のハーモニーを楽しむ。

広島駅、他市内のお土産店／16枚入り 1,118円



瀬戸田レモンケーキ&マドレーヌ

尾道市瀬戸田のレモンをたっぷり使用。食べるとレモンの爽やかな香りが口いっぱい広がり、ついついもう一個!と手を伸ばしてしまうおいしさ。レモンを模したバック型のかわいいパッケージが目印!!

広島アンデルセンの店舗、広島駅内のお土産屋／各3個入 1,360円



おとなのもみじ 抹茶とあん餅

大人向けもみじ饅頭をコンセプトに、苦みを感じる宇治抹茶の生地に北海道十勝産の小豆と氷砂糖を使用したあん餅を包んだ上品な味わい。餅はとろりと伸び、うっとり気分。

同社光町本店、直営販売店他、オンラインショップ／6個入り ¥1,000



青島せんべい

サクサクした食感と香ばしいクリームがやみつきになるせんべい。ホワイトとナッツ、ふたつの味が楽しめる!みんなでシェアして食べたいサイズ感。宮崎を代表する銘菓で、次から次へと食べたくなるお土産の定番。

お菓子の日進堂(有)／24枚入り 2,592円



のべおかジンジャーエール

延岡特産品の生姜をブレンドしたオリジナルジンジャーエール。爽やかな味で、炭酸とのマッチも抜群。甘すぎず苦すぎず絶妙なバランス。すっきりしていて飲みやすい。パッケージも上品で、お土産にぴったりな一品。

宮崎県内の駅や空港／1本 250円



南国プリン

天然のバナナピーズを使用し、一つ一つ丁寧に作られたプリン。プリンの上のキラキラしたジュレは南国宮崎の空をイメージしている。なめらかな舌触りと濃厚でありながらもすっきりとした甘味が特徴。

南国プリン／青島プリン450円・南国マンゴープリン480円・シャインマスカットプリン(季節限定)480円



あまみ黒糖ショコラ

奄美大島のさとうきびを100%使用した「純黒糖」をビターチョコで包みココアパウダーでコーティングした商品。お洒落で不思議な触感でお土産に喜ばれること間違いなし!

奄美きよら海工房／1,080円



豚みそ

奄美の家庭的なお惣菜の定番。豚肉とつぶ味噌を使用しており、甘めの味付け。おつまみにはもちろん、温かいご飯にも相性抜群で何にでも合う一品。忘れられない味なので、まとめ買い推奨!!

荒木食品／730円



ビッグII Tシャツ

奄美を代表するローカスーパー、ビッグIIの超人気グッズ。地元の人から有名人まで幅広く愛されているこのTシャツは、色やデザインも様々な種類があり、自分のお気に入りの一着を見つけられる♡

ビッグII奄美店／2,750円～



直島塩サイダー

直島名産の瀬戸内海の海水から作られる「SOLASH-IO」を使った塩味のサイダー。塩気の奥に甘味を感じ、さっぱりとしたのどごし。サイダーの瓶が飾りたくなる可愛さ。

海の家なおしま／310円



きびだんご

創業以来きびだんご一筋の専門店「山方永寿堂」の看板商品。こだわりのきびだんごは柔らかくもちもち食感。一つ一つかわいい包装紙で包まれていて、開けて楽しい、食べておいしいお土産にも最適な商品。

山方永寿堂／500円



岡山のもも

岡山県産ももジャムを桃果肉入り白餡で包み込み、薄皮で白桃の形にしたお饅頭。一見まるで箱詰めされた新鮮な桃のよう。でもフルーツの桃ではないから気をつけてね!!

久ら志き食品株式会社／756円



有馬の炭酸泉せんべい

口に入れた瞬間はほんのり甘いものの、溶けるように無くなるくらい薄く軽い。後を引く美味しさに、何枚でも食べられるせんべい。店舗では出来立てを食べることができる。

有馬温泉や市内のお土産店／20枚入り 648円



トートバック・トミカ

北野異人館街のペンの家に併設するお土産ショップ。神戸にちなんだお菓子やグッズが多数販売されており、ユニークな神戸土産を購入するなら立ち寄り必須!!

COUVENIR(店舗)やオンラインショップ／刺繍 BAG BON VOYAGE 1,760円 トミカ1個 605円



サイダーってぼう水風呂 名湯百景有馬 入浴剤

有馬温泉名物のサイダー鉄砲水は、さわやかな香りに加え水に入れると発砲するところが特徴!名湯百景有馬の入浴剤は、温泉気分を味わって心安らぐこと間違いなし! 有馬温泉や市内のお土産店／有馬温泉名物のサイダーってぼう水風呂270円(税抜) 名湯百景有馬150円(税抜)

New-Locagraph

ニューロカグラフ

今の私たちだからこそ撮れた写真。
まだまだあるので、ここで紹介します。
もし、また訪れたとしても
同じ写真はもう撮れないと思います。
あなたが旅をしたら、どんな風に見えるんだろう。
あなたと旅をしたら、どんな風に映るんだろう。
あの時の情景を思い出しながら。



new localism / New-Locagraph

new localism / New-Locagraph

New-Loagaph

ニューロカグラフ



new localism / New-Loagaph



new localism / New-Loagaph



Editor's note

あなたにとってのNew Localismとは。

旅マエ・旅ナカ・旅アトで感じたことを自分らしく伝えたい。
池田ゼミの各チームに旅の思い出を話してもらいました。



えっと瀬戸の魅力があるがす～

のあ:広島どうだった?
りお:すごく晴れてて超暑かった!
もも:うん!だからこそ冷製パスタ食べたり、かき氷屋さんに行けた!
りむ:自分たちなりにお店見つけて、その時の感情で出会えた奇跡の旅になったよね～
のあ:普段家族とか友達とかと行く旅とは全然ちがった～!
りお:確かに!普通の旅行で商店街行くことなかなかないもん!
もも:実は元々の計画から色々変更したよね
りむ:元々行く予定だった神社が思っ

ていたより遠かったり…!
のあ:穴子のお店で神社まで結構時間かかること教えて貰えてたすかった!
りお:広島で出会った方々、みんなすごく親切でいっぱい助けてもらって何かお礼がしたくなった!
もも:そうよね!次に行くときは福岡のお土産を持って行って配りたいな!
りむ:それいいね!
のあ:また4人で広島行くこうね!
りお:次行く時は違う場所も訪れてみたいな
もも:だね!広島ぶち好きじゃけえ～♡



あっぱ
ハプニングのち天晴れ

しずく:今回の旅はどうだった～?
もんりん:夏本番ですごく暑かった～!南の島って感じー!
さな:南の島の自然に触れて癒されたよね
しずく:それなー!宮崎の空気感本当に素敵だった!
みゆ:神秘的な場所で、心が安らいだ～
みゆ:一番印象に残ったことは～?
もんりん:やっぱり伝説のタクシー事件かな?(笑)
さな:確かにー!バスに乗り遅れて本当焦ったね
しずく:本当に絶望的で言葉が出なかったね
もんりん:でも、そんな時に親切なタクシー

の運転手さんと出会えて救われた～!
さな:救世主ヒーローに感謝!
しずく:うんうん!宮崎の方、本当に優しく居心地よかった～
みゆ:はじめましてなのに家族のようなそんな安心感があったね
もんりん:わかる!どこに行っても人の温かさに包まれた幸せだった旅!
みゆ:ハプニングも多かったけど、そこにも旅の楽しさが詰まってるよね!
さな:一言でまとめると一期一会の旅!
もんりん:またみんなで宮崎いきたいー!
みゆ:確かに!今度はどんな旅になるかな?
しずく:リポート宮崎楽しみだね!



ぬくもり いろいろ さあ!みしよれ～

ひめか:奄美楽しかったね～♪ みんなどうだった?
はりお:私は奄美の人達の優しさが沁みたま～
ゆづ:本当が良いに尽きる!優しさに触れればなしたったよね～
ほの:うんうん!普段は味わえない人の温かさや綺麗な景色ばかりやったよね!!
ゆづ:奄美にいる人みんなが優しさを持ってた!もしかしたら、奄美には人を優しくする魔法があるのかも、…♡
はりお:絶対ある!みんな雰囲気柔らかいんだよね～ちょっとの距離でも車で送ってくれるとか優しさが溢れすぎて!

ほの:タイトルのみしよれ～は、方言で「召し上がれ」って意味やったんやけど、本当にたくさんの人に奄美の良さをいただいたよね!!
ひめか:うんうん♡奄美の良さ存分に味わった!
ゆづ:人の優しさとたくさん色で溢れる奄美をこのパンフレットでみしよれ～して欲しいね♡
はりお:絶対お腹いっぱいになると思う!
ほの:またみんなで帰ってこようね～♡



あぁー!っとアートと出会ったと。

あやの:旅行どうだった?
せいら:楽しかった!けどそれ以上にしんどかったかも…
りんか:いや、それはそう。直島のチャリが意外ときつかったね
まなみ:自転車なんて久しぶりに乗るから筋肉痛だよ～
あやの:でもやっぱり南瓜見たかったね～
せいら:そうだね。ちょっと遠かったし、雨も降ってきたしね
りんか:でも今回見れたアートはどれも頑張って見る価値あるよね!
まなみ:次直島に来るときは二日以上いるね!

あやの:倉敷も楽しかったよね
せいら:二時間も粘土こねた陶芸が売り物みたいにできたね!
りんか:私毎日それでお茶飲んです!
せいら:まじ!私はそれでカブレーゼ食べてる!
まなみ:ちょうどいい窪みあるもんね
あやの:あと食べ歩きも充実してたー!
せいら:コロッケが超サクサクで美味しかった
りんか:旅の思い出がいっぱいできてよかったね。また来たいね!



パスポートなしの海外旅行入門編

りな:神戸旅行楽しかった人ー!
みんな:はーい!!
みずな:旅の中で何が1番印象に残ってる?
えな:有馬温泉かも～!食べ歩きも、電車乗り間違えたのも全部楽しかった!
かの:それな!うちら写真撮るのに必死すぎたよね(笑)
りな:私もー!でも温泉は入れなかったのちよびり心残り～
かの:確かに残念だけど、結構人が並んでたもんね～
えな:でも、食べ歩きがメインだったし、念願の明石焼き食べれたけんよかつたよね!
みずな:実は、私が1番印象に残ってるのは、ゲストハウスなんよね!
えな:なんか、色んな国の人がおって不思議な感じやったなあ
りな:みんなすぐ寝ちゃうほどアットホームだったよね～
かの:でも私食べ歩き楽しくて次の日の朝、パンナクック食べたのもいい思い出～
みずな:充実した旅で本当に楽しかったよね!またみんなで神戸行きたいね